

5月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

4月下旬に入ってから、藤棚にとってもきれいな藤の花が咲いている幼稚園です。1年を通じて色とりどりの花を見ることができるよう、子どもたちも色とりどりの思いや行動を幼稚園で見せてくれるようになりました。年度当初は、幼稚園に登園する時も少し不安そうな面持ちで、やってくる子が多かったように思いますが、最近では少しずつ慣れてきたのか、凛々しく、逞しさも感じるようになってきました。

子どもたちはどんなに小さくても確実に自分たちの足で1歩ずつ前に歩き、成長する力があることを些細なことから気付かされます。保護者と一緒に登園する自力登園の場合、園までは安全上の点から、もちろん一緒に登園するのですが、どこで保護者と別れるのか？はきちんとした決まりはありません。保育室まで一緒に行ってそこで別れる子もいれば、幼稚園の入口で別れる子もいます。どちらが良くて、どちらが悪い訳ではなく、子どもたちがきちんと切り替えができれば、それが最も大切だと思っているのですが、保護者としては、早く1人で保育室に行って欲しいばかりに「今日はここでバイバイできる？」「1人で行ってみる！？」と子どもたちにチャレンジさせようと声をかけている場面を見ることがあります。

しかし、大体はその要望通りにならないことが多く、「お部屋まで一緒に行って！！」とリクエストされることがほとんどです。結局は、子どもたち自身が感じて動き出そうとしなければ、親や大人が無理やりさせようとしても、その行動というものは思い通りになることはありません。子どもたちの力を信じて待つことが、時間がかかりそうに見えて、一番の近道なのです。

最近、あるお友だちがいつも保育室まで保護者と一緒に行っていたのに、「もうここでバイバイする！」と自分から進んで歩き出したところを見ることがありました。「あれっ、なんで！？」と拍子抜けするような時間でしたが、子どもたちの新たな1歩というものは、得てして大人が理解できないような時に起こるものだと感じました。1人で保育室に行けることが素晴らしいのではなく、自分で判断して、新たなチャレンジを行動に移したその気持ちが、大きな成長の1歩です。そして、このような些細な行動の変化に気づき、共感してあげることが大切です。どのようなことも共感してもらえることは、とても嬉しく、自信につながっていくものです。上手にできた、きちんとできた、ではなく自分の力で歩んだ1歩が、たくさんの人に認められ、心の中に崩れない自信として積み重ねていけるような幼児期を過ごしてほしいと願っています。

【年主題】

「ともに」

【年主題聖句】

「わたしはあなたと共にいる。」

(イザヤ書43章5節)

5月主題 「感じる」

聖句 「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。」

(マタイによる福音書6章28節)